

2020年度事業・活動報告

1. 古着類の回収とアル・カイル事業グループ（以下AKBG）への送り出し

1) 古着・毛布などの回収 2020年度計画 120トン：実績 135.9トン（計画対比 121.1%）

	回収期間	回収量	参加人数
1回目	2020年10月～12月	51,051.2kg	7,124人
2回目	2021年1月～5月	38,003.3kg	5,285人
3回目	2021年6月～9月	46,853.0kg	6,529人
	合計	135,907.5kg	18,938人

2020年度の回収は計画を120トンとしました。センターでの回収受付期間は年に3回設けました。回収量は135.9トンとなり計画を15.9トン上回りました。前年度対比は121.1%でした。参加人数は延べ18,938人で、前年より延べ4,099人増えました。1回目の回収期間から回収量、参加人数ともに順調に増えて、回収量は過去最高になりました。

回収協力団体の皆様には積極的に広報にもご協力いただき、回収量の83.4%は協力団体の所属メンバーの方からの回収でした。新型コロナウイルス感染症への対応のためにイベント回収はほとんどできませんでした。社会的には、多くの自治体が2020年春以降、古着資源回収の中止や制限の呼びかけを行なったこと、脱炭素社会に向けた課題として衣料品の廃棄が注目されたこと、“巣ごもり”と呼ばれる状況が衣類の整理につながった可能性などがあり、回収量の増加の要因と考えられます。

会員・支援メンバーの受付期間はほぼ通年としました。会員・支援メンバーの方からの回収は14,745kgで、回収量の10.8%（延べ1943人）でした。ご協力ありがとうございました。

笠間市による回収協力は、回収したものを選別してくださるボランティアの皆様の新型コロナ感染を避けるために、2020年度は中止となりました。

*協力団体の方々からの回収は「6. 多様な団体との連携」及び資料「2020年度団体別回収集計」をご覧ください

①新しい回収協力団体の参加

団体への呼びかけはできませんでした。

②情報の広がりを作るためのホームページ、フェイスブックの活用

ホームページにフェイスブックを載せ、回収や販売、コンテナ送り出しなどの情報を発信しました。見やすい画面作りを心がけました。しかし、年度の途中から担当事務局が休職となったこともあり、定期的な発信はできませんでした。2回目と3回目の回収期間では、ホームページに回収のセンター持込み予約フォームを作りました。持込み人数延べ632人の内154人が予約フォームからの予約で、3回目の期間中には115人が利用しました。

③新たな回収品目の検討

国内リユースの利用が増えて、特に男性用衣類が不足したために、これまで回収していなかった男性用のフリースとトレーナーの回収を始めました。

*その他の回収協力は「6. 多様な団体との連携」の7) 企業や団体、学校との協力関係をご覧ください

2) AKBGへの古着送り出し

計画した4回の送り出しを実行しました。輸出力は計画の94トンを上回る約98トンを輸出することができました。増量した要因としては、梱包用具の引締め機能の強化や梱包シートの活用によりボールのサイズをコンパクトにできたことと、コンテナ積み込みにフォークリフトを活用したこと、容積を取るスーツケースが減少したことが挙げられます。また、一度の送り出しにかかる準備期間をこれまでより短い2ヶ月～2ヶ月半に短縮することができました。選別方法や輸出品目の種類分けを一部簡略化したことと、人員配置を見直したことによります。

	J F S Aコンテナ積み込み	A K B G受渡し・倉庫着	送り出し量
第71回	2021年1月19日	2021年3月19日	23,549 kg
第72回	2021年3月31日	2021年5月11日	24,403 kg
第73回	2021年6月8日	2021年8月11日	24,835 kg
第74回	2021年8月10日	2021年10月16日	25,198 kg
合計			97,985 kg

3) 古着販売事業

J F S Aからは4本のコンテナを輸出しました。グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部からは2本のコンテナが輸出されました。コンテナはすべて卸業者ワリー氏・ニアーズ氏に販売されました。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響から事務局派遣が実行できなかったため、A K B G事務局カユーム氏がコンテナの荷降ろしに立ち会い、報告を受けました。

2020年度のA K B Gの古着販売事業の利益は約136万ルピー（約92万円）となりました。卸業者に販売する1kgあたりの卸売価格の平均（第71～74回）は107ルピーでした（前年度平均106.6RS）。コロナ禍の影響からコンテナの海上運賃が高騰し、前年度の約3倍になっています。価格上昇した分については、卸業者も一部負担し、卸売価格に反映されていますが、経費は前年度より25%増加しました。その結果、利益としては前年度よりも、約124万ルピー（約75万円）減少することになりました。

【資料】2020年度 JFSA第71回、第72回、第73回、第74回AKBG古着販売事業収支

	第71回(2021.1/19)	第72回(2021.3/31)	第73回(2021.6/8)	第74回(2021.8/10)	合計
古着等送出し量(kg)	23,549	24,403	24,835	25,198	97,985
収入合計(ルピー)	2,684,586	2,440,300	2,483,500	2,897,770	10,506,156
* 日本円	1,743,238	1,694,653	1,724,653	2,012,340	7,174,883
妥結:1KG当たり卸売価格(ルピー)	114	100	100	115	平均:107
経費合計(ルピー)	2,139,250	2,287,511	2,228,521	2,487,108	9,142,390
* 日本円	1,389,123	1,588,549	1,547,584	1,727,158	6,252,415
①日本サイド(ルピー)	1,441,412	1,494,330	1,527,935	1,569,341	6,033,018
②パキスタンサイド(ルピー)	697,838	793,181	700,586	917,767	3,109,372
純利益(ルピー)	545,336	152,789	254,979	410,662	1,363,766
* 日本円	354,114	106,103	177,069	285,182	922,468
為替レート(パキスタンルピー:日本円)	1ルピー:0.65円	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	
*海上運賃(経費のうち)	US\$3,200	US\$3,750	US\$3,500	US\$3,650	平均:US\$3,525
前年度純利益(第67回～70回) 2,603,978ルピー(1,669,805円)					

【資料】2020年度 グリーンコープ第24回、第25回AKBG古着販売事業収支

	第24回(2020.12月到着)	第25回(2021.4月到着)	合計
古着等送出し量(kg)	24,073	22,697	46,770
収入合計(ルピー)	2,262,862	2,042,730	4,305,592
* 日本円	1,432,191	1,418,563	2,850,754
妥結:1KG当たり卸売価格(ルピー)	94	90	平均:92
経費合計(ルピー)	2,695,719	2,079,817	4,775,536
* 日本円	1,706,151	1,444,317	3,150,469
①日本サイド(ルピー)	1,390,647	1,371,901	2,762,548
②パキスタンサイド(ルピー)	1,305,072	707,916	2,012,988
純利益(ルピー)	-432,857	-370,877	-469,944
* 日本円	-273,960	-257,555	-299,715
為替レート(パキスタンルピー:日本)	1ルピー:0.63円	1ルピー:0.69円	
前年度純利益(第22～23回)497,200ルピー(328,999円)			

グリーンコープ第24回コンテナはカラチ港での通関手続きに時間を要したため、コンテナ留置料が発生し、パキスタンサイド経費がかさんだことなどから赤字となりました。この対応についてはA K B Gと協議を行なっています。

2. AKBGとの事業連帯の推進とアル・カイルアカデミーの自立支援

1) JFSA海外古着販売

各担当がそれぞれの状況に合った取り組みを行なっていく上で、これまで柏店で注文、管理していた業務を、千葉店でもより現場に合った仕入、販売を行なうために、千葉店、柏店で分けて輸入することになりました。計画の変更に伴い輸入経費としては予算を72%上回りましたが、千葉店、柏店ともに約80%売上目標を上回ることになりました。街商販売については今年度もあまり参加できなかったため、仕組みづくりへの取り組みはありませんでした。

2) 縫製工房 (kar-khana かけ事業)

イベントに出店することで受注獲得のための営業と認知度の向上を目指しましたが、同一主催者のイベントに偏った出店だったため、結果として新規の受注獲得、認知度の向上にはつながりませんでした。状況の認識、分析などを共有する仕組みが整っていなかったため、目標達成を組織として目指すことが難しい状況となっていました。それに対する改善の取り組みとして、クラウド上で縫製工房の生産状況を共有する仕組み作りや、宣伝、販売用のHP作りに取り組み始めました。

3. 国内事業

1) センター業務

① 千葉センター

毎朝のミーティングにおいて、回収や選別待ち在庫状況の確認と店舗の販売状況を共有することで、優先順位を確認しながら作業に取り組みました。店舗の売れ筋や企画と連動して選別を行ない、販売を意識した選別につなげるようにしました。また、千葉センターミーティング（事務局、一部アルバイト）を隔週程度で行ない、回収や販売の現状認識と課題を確認し、その具体策について話し合う場としました。

回収量が計画を上回ったため、選別協力団体の作業日とアルバイトを補充し、回収→選別→圧縮・梱包→輸出のサイクルを早めることで対応しました。倉庫内に輸入物保管用の棚を設置しました。

選別協力団体が定期的に作業に参加しました。軒先市への出店、野菜の店頭販売を通し、団体の目的や活動への理解と連携が深まりました。コンテナ積み込みや倉庫内改修への協力がありました。店舗の屋外屋根設置を千葉ダルクがB型就労としてすすめる便利屋事業に依頼しました。

② 東葛センター

選別協力団体の受け入れは、緊急事態宣言中や猛暑の期間など、状況を判断しながら受け入れを行ないました。カゴ車やカゴテナを活用して状況に応じた作業環境を作ることで、古着回収や輸入コンテナの受け入れに対応しました。安定した作業人員の確保ができなかったことで、仕分け作業が滞った点が課題となりました。

2) ショップ販売

① CHARKHA BAZAAR (チャルカバザール) 千葉店

昨年度に引き続きコロナ禍の状況でしたが、来店者数が伸び（昨年度比128%）、売上目標を達成することができました。

輸入古着の仕入量を増やし、Instagramを活用したアピールを行なったことや、口コミでも広がり、特に若年層（10代、20代）の来店者が増加しました（若年層昨年度比328%）。

しかし、輸入古着の注文から到着までの期間の見通しができておらず、計画した入荷時期に合わせることができず、男性用古着の販売在庫不足が生じた期間がありました。その期間については、女性物の販売に注力しました。女性物の売り場を拡大したことで、女性のお客さんに倉庫側の売り場を知ってもらえるきっかけになりました（二か所の建物に分かれて売り場があります）。

30代以上の世代に向けては、公式LINE、Facebook、郵便ハガキを利用し、アピールを行ないました。売り場づくりは、お客さんとのコミュニケーションの中から得た情報も取り入れながら行な

いました（品出し、レイアウトなど）。セールについては、混み合わない形を模索しながら行ないました。

野菜の店頭販売や月に一度の軒先市も徐々に定着してきており、近所の方を中心に野菜の入荷日や軒先市に合わせての来店があり、野菜と合わせて古着の購入にも繋がっています。

② k a p r e（カブレ）柏店

季節に合わせて店舗内容を変化させていくことを明確にし、日常的な作業の現在地を関わるスタッフが意識できるように取り組みました。それを基にした指南書の作成を行ないました。ただ、方針を定めたことにより単調になった店作りや宣伝が客層を狭めている可能性があるため、柔軟な取り組みが課題となりました。HPのリニューアルは、カルハナ事業とあわせて行なうこととしましたが、実行は来期へ持ち越しとなりました。SNSでの動画配信を行ない、今までよりも短時間で多くの商品が紹介できる有効な宣伝手段だとわかったので、継続して取り組んでいきます。

3) 街商販売（フリーマーケット、その他）

千葉銀座通り、赤羽公園、川越水上公園、越谷水上公園、ヒルトップなどのフリーマーケットやイベントに出店しました。緊急事態宣言が出される度に開催が見送られ、主催者の判断に委ねざるを得ない状況が続きました。レンタルスペースを利用した独自の出店企画を検討しましたが、実行に繋げることができませんでした。JR船橋駅北口デッキでの支援バザールは、管理者の市の判断で開催できませんでした。結果として実績は予算を大きく下回りました。街商販売が実行出来ない状況下、担当事務局はセンターの業務を進めました。

4) 販売協力団体

アースマーケット（千葉市）、おおなみこなみ（千葉市）、中川クロス（市川市）での委託販売を行ないました。各箇所とも、客層やお客さんの要望に沿った品揃えにできるよう努め、定期的に商品の入れ替えを行ないました（2～3週間に一度）。緊急事態宣言に伴い常連客の来店頻度が減る等の影響もあり、アースマーケット、おおなみこなみについては売上目標を下回りました。中川クロスについては、昨年度よりも入れ替え頻度を多くできていることで常連客が定着していること、店内のスペースが狭いため予約制を取り入れ、込み合わない状況で常連客がゆっくり見られるように工夫していることが売上に繋がったと考えられます。おおなみこなみでは定期的な衣類の回収や販売イベントを検討していましたが、一度の開催（2020年12月）に留まりました。

アースマーケットからは、古着の回収に協力してくださった方もいました。また、中川クロスからは、千葉店の店舗に足を運んでくださった方、古着の回収に興味を持ってくださった方もいました。

5) 市民活動と連動した企画

① 協力団体主催のイベントや市民活動と連動した販売を伴う企画は開催されませんでした。

生活クラブ虹の街の協力により、引き続きデポーへの出店を行なうことができました。

② 実行委員会参加企画

・ぼっぼの市：2020年11月に新型コロナ感染対策を講じ開催しました。2021年4月は前日の大雨により開催を中止しました。

・アースデイちば：運営体制の立て直しができず、開催できませんでした。

・新松戸中央公園チャリティーフリーマーケット：新型コロナウイルスの影響により秋、春ともに開催を中止しました。

③ J F S A主催バザール企画：千葉センター（開催会場の公園は2022年3月まで工事中）、東葛センターともに開催されませんでした。

④ リサイクル着物販売企画：和衣マルシェちば@まる空間は、引き続きTomo's Caféとコラボ開催しました。4月、7月には番外編として和洋折衷コーデの提案企画などを取り入れて開催しました。選別・販売に協力している「なごみ」メンバーがアイデアを出し合い、運営への積極的な協力があり

ました。全体としては、常連客に加え、毎回SNS経由の新規来店が数名あり、売り上げに繋がりました。

- ・実行委員会企画(回転木馬、ぷちそら、J F S A) : 今年度は開催しませんでした。
- ・FRうらやす企画 : 2021年3月に開催が検討されましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止されました。

4. 広報活動と会員の参加

1) 会員数の増減

会員数は前年度より98人増えて計画を上回りました。新規入会者は244名(昨年度222名)でした。昨年度に入会した方には、会報発行や回収のお知らせを送付するときに継続願いを送りました。継続率は89.0%(昨年度88.7%)で、これまででいちばん高くなりました。また、昨年度に新規に入会した会員の継続率は77%になり、2016年度以降の継続率は毎年増え続けています。

会員以外で回収に参加した方には、回収の案内、古着のゆくえについてのお知らせと一っしょに入会の呼びかけを郵送しました(のべ約15,500人)。ホームページの入会案内のレイアウトを変更しました。会員、支援メンバーの回収受付期間を延長し、ほぼ通年で回収に参加できるようにしました。

	会員数(うち新規入会数)	前年比	口数	前年比	計画口数
会員(個人)	166名(17名)	+18名	177口	+19	160口
支援メンバー(個人)	1,257名(227名)	+80名	1,429口	+107	1,350口
会員(団体)	11団体(0)	±0	11口	-1	11口
支援メンバー(団体)	7団体(1)	-1	7口	-4	5口

2) 広報活動

会報を年3回発行しました。回収案内を回収期間が始まる約1か月前に発送しました。発送には送っていただいた切手やハガキなどを郵送料として使用しました。

2020年11月に行なった定期総会後の活動報告会は、アル・カイルアカデミーとオンラインでつないで行ないました。年度内に会員に向けたオンライン交流会企画を実施する予定でしたができませんでした。団体会員やその他の協力団体で、オンラインでの報告企画を実施していただきました。

3) サポーターグッズ

2020年度のサポーターグッズは、手織りの生地カディを使い縫製工房で作ってもらった大判ハンカチ(ロマール)にしました。ハガキやメール、電話、また直接に会った会員の方たちから貴重なご意見、ご感想をいただくことができました。

4) ボランティアの参加

コンテナ送り出しの積み込み、会報や回収案内の発送作業に協力をいただきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大している時期には、参加の呼びかけを行なうことができませんでした。

和服の専門知識のある方たちのグループ「なごみ」に整理や販売に協力いただきました。

5) 活動報告会・交流会など

2020年度は団体会員、団体支援メンバーなどの協力を得ながら、回収、オンラインを利用した報告会などを行ないました。

【2020年】

- 10月15日(木)「住まいと福祉の会」活動報告
- 10月22日(木)バリューブックス訪問
- 10月26日(月)原宿シカゴ訪問
- 10月27日(火)都小学校町探検受入れ

10月28日(水) グリーンコープ地域運動オンライン交流集会
11月12日(木) 麗澤大学講師
11月22日(日) ぽっぽの市

【2021年】

2月14日(日) 写真展&トーク(大田区エコプラザ・大地を守る会)
3月8日(月) 生活クラブ茨城水戸センター 仕分けと交流会
3月11日(木) 夜間中学オンライン活動報告
3月17日(水) 生活クラブ埼玉オンライン学習会
4月7日(水) 労働者協同組合法成立記念フォーラム in ちば
4月19日(月) パルシステム千葉オンライン交流会
5月14日(金) 生活クラブ茨城取手センター活動報告会
6月19日(土) 20日(日) 衣類回収&写真展(ユニモいちほら)
6月27日(日) 市民ネットわかば衣類回収
7月3日(土) パルシステム茨城 栃木 スマイルパル土浦衣類回収
7月5日(月) 生活クラブ茨城水戸センター 仕分けと交流会
7月11日(日) 市民ネットわかば選別体験
8月2日(月) 6日(金) 日本女子大の学生選別体験
8月5日(木) グリーンコープワーカーズ・ファイバー部会オンライン研修
9月24日(金) パルシステム千葉オンライン交流会(東金センター衣類回収)
9月30日(木) 生活クラブ虹の街組合員リーダー全体研修オンライン学習会

5. 研修

実施には至りませんでした。

6. 多様な団体との連携

1) 地球市民交流基金アーシアン

アル・カイルアカデミーの招日交流会の機会を持てなかったため、縫製科への寄付金と給食費用のカンパは直接に送金をさせていただきました。

縫製工房にオーダーをいただいていた商品サンプルの納品を行ないました。以前作った商品の追加オーダーをいただきました。展示会や店舗では kar-khana 商品の販売をさせていただきました。

2) NPOクラブ

NPOクラブが運営する「多世代交流拠点 おおなみなみ」で古着の委託販売を行ないました。年末に回収と販売の企画を実施しました。

NPOクラブから要請を受け、ちばし地域づくり大学校の企画に参加することを決めました。

3) ワーカーズコレクティブ千葉県連合会

選別協力団体として(企)ワーカーズ・コレクティブ紙ふうせんが継続して東葛センターで作業を行ないました。

4) ファイバーリサイクル四街道、ファイバーリサイクルうらやす、ファイバーリサイクル佐倉

・ファイバーリサイクル四街道…活動収益金の一部を寄付していただきました。AKBG縫製工房への寄付をいただきました。メンバーの方が千葉センターを訪問してくださいました。

・ファイバーリサイクルうらやす…活動収益金の一部を寄付していただきました。アル・カイルアカデミーのコンピュータークラスへの寄付をいただきました。メンバーの方が千葉センターを訪問してくださいました。イベントで kar-khana 商品の展示販売をさせていただきました。

・ファイバーリサイクル佐倉…活動収益の一部を寄付していただきました。AKBG縫製工房への寄付をいただきました。イベントでのアル・カイルアカデミーの写真展示に協力しました。

5) 団体会員、団体支援メンバー

回収協力団体では回収の広報を定期的にしていただき、メンバーの方たちの回収参加、イベントなどの出展、報告会の開催などに協力していただきました。新型コロナウイルス感染症の拡大予防のために招日交流はできませんでしたが、オンラインでの報告会や回収企画などを実施していただきました。

- ① 大地を守る会（回収協力団体）・・・コンテナ送り出し積み込みボランティアに協力していただきました。パキスタンの様子を伝える写真展を開催していただきました。回収お知らせチラシの会員の方への配布、広報紙での紹介、WEBでの広報に協力していただきました。
- ② パルシステム千葉（回収協力団体）・・・オンライン交流企画開催、広報紙での紹介、東金センターでの回収、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。ぼっぼの市に出店していただきました。
- ③ 生活クラブ・東京（回収協力団体）・・・広報紙に記事を掲載して回収のお知らせと活動を紹介していただきました。
- ④ 生活クラブ虹の街（回収協力団体）・・・オンライン交流企画開催、配達便による回収（年3回）、デポー（生活クラブの店舗）での回収（年6回）と販売、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。ぼっぼの市に出店していただきました。
- ⑤ ポラン広場（回収協力団体）・・・回収に協力していただきました。
- ⑥ 社会福祉法人風の村・・・「虹と風のファーム」が千葉センター軒先市に出店していただきました。千葉ショップで野菜受託販売を行ないました。
- ⑦ 生活クラブ茨城（回収協力団体）・・・配達便による回収とその後の仕分け&交流会開催、学習会の開催に協力していただきました。
- ⑧ グリーンコープ・・・地域運動交流集会(オンライン)で、ムザヒル氏が動画でアル・カイルアカデミーの報告を行ないました。
グリーンコープワーカーズ・ファイバー部会オンライン研修に講師として参加しました。
- ⑨ パルシステム茨城 栃木（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。センターでの回収企画を実施していただきました。
- ⑩ 生活クラブ埼玉（回収協力団体）・・・回収の広報に協力していただきました。オンラインで理事の方たちへの報告の機会をいただきました。
- ⑪ 常総生協（回収協力団体）・・・2019年9月に始まった配達便による回収の取り組みに、継続して協力していただきました。

6) 他のNPO/NGOとの交流

児童労働反対世界デーキャンペーンへは、チャリティバザールの開催中止により参加しませんでした。企業組合あうんが毎月の軒先市に参加しました。

7) 企業や団体、学校との協力関係

- ・千葉センターの軒先市開催時に引き続き周辺事業者から駐車場を借用しました。
- ・幕張インターナショナルスクール6年生による回収が昨年度に続き実施されました。
- ・(株)アド・ウォークによる衣類回収&写真展企画@ユニモちはら台店に参加しました。
- ・バリューボックスのチャリボン企画への参加準備を進めました。
- ・毎日興業(株)からチャリティーイベントで使用したTシャツの寄付がありました。
- ・寝具のリース企業の東基(株)、(株)オタフク、(株)小山から、毛布、ベッドシーツなどの寄付がありました。
- ・エー・シー・エス債権管理回収(株)が、社会貢献活動として社員を対象にした衣類などの回収を行ないました。
- ・損保ジャパン千葉県が、社会貢献活動として社員を対象にした回収の取り組みを2021年秋に実施

することが決まりました。

・特非) としまNPO推進協議会と東京豊島東ロータリークラブが、共催するイベント“縁側市”で回収を行ないました。

・ベイタウン幕張でのイベント回収は実施できませんでしたが、地域のコミュニティスペースを利用した回収について提案をいただき、2021年秋以降に実施する方向で話をすすめました。

・環境街づくりNPOエコメッセに回収に協力いただきました。

8) APF (互恵のためのアジア民衆基金) との連携、AKBGによる新規事業への協力

APF総会(オンライン)にムザヒル氏とともに参加しました。APFメンバーのハンサリム連合は、継続して古着回収を実施、引き続き韓国内で販売し、売上をアル・カイールアカデミーの支援、新規事業資金、ハンサリム連合の交流費に充てました。アル・カイールアカデミーの状況について報告しました。

9) 社会福祉法人グリーンコープ

ファイバーリサイクルセンターが発行するファイバーリサイクル通信で、アル・カイールアカデミーの状況を報告しました。

10) ユニバーサル就労ネットワークちば

会員として参加しました。

7. アル・カイールアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々との交流

今年度は招日・派遣は計画しませんでした。

現地との交流は、主にJFSA理事会や会報発行のタイミングでムザヒル氏へ連絡を取り、お互いの状況について共有しました。連帯事業については、適宜カユーム氏と連絡を取り合い進めました。

生活クラブ虹の街組合員リーダー全体研修へムザヒル氏とともに参加しました。

交流の場としてのオンラインの活用を検討しましたが、実行には至りませんでした。

8. 危機管理の充実

1) 国内事業

定例のミーティングを行ない安全管理に努めました。新型コロナウイルス感染症の予防策を店舗や作業場、主催イベント等において定め実行しました。

2) 海外事業

リスクマネジメントに関して、新たな検討は行なっていません。

9. JFSA事業の自主管理について

JFSAは、設立当初から活動を現場で担う者が組織運営に責任をもって携わることを大切にしてきました。具体的には事務局職員は全員理事になり、他の理事も含めて理事会を構成し、話し合いを重ねながら活動して参りました。この事はJFSAの活動に、事務局職員一人一人が主体的に参加することであり、今後もぜひ継続したいと考えております。

現在、就業規則の見直しを進めております。また同時に、JFSAの日常の活動においても、その活動の目的を個々が再確認する機会を作ります。そしてJFSAの職員として働くことで豊かな人間関係を築いていけるように努力を重ねて参ります。